

日本共産党伊東市委員会は、市政政策を発表しました。

希望ひらく伊東市へ 学歴詐称疑惑の市長は辞職を！



2025年5月25日の市長選で、市政刷新を求める多くの伊東市民は、田久保真紀市長を誕生させました。

新図書館やこども園建設をめぐる前市長の対応などが批判され、「現状に不満を抱く層が雪崩を打って田久保氏に投票」(伊豆新聞5月27日)という状況が生まれたのです。私たち日本共産党も、長年続いた自公市政からの転換を求める多くの市民と立場を同じくして選挙に臨みました。

しかし、6月10日の議会運営委員会や同月25日の議員質問で学歴詐称疑惑が表面化すると、その後の市長の対応は「市民ファースト」(自らの公約)とは無縁の不誠実なものでした。私たちをふくめ、多くの人たちの助言も十分生かされませんでした。

市政は混乱し、あふれるばかりのマスコミ報道により、伊東市民を不安に陥れ、全国的にも大きく注目されるようになりました。

仮に、「卒業証書があるから卒業」と思い込んでいた」との錯誤があったならば、その根拠を市民や社会にいていねいに説明すべきです。自身が持っている「卒業証書なるもの」も、本物か否かを大学でただちに検証してもらうべきでした。

私たち日本共産党は、こうした市長の対応を受けて、市長に対する辞職勧告決議案や不信任決議案に賛成しました。

それに対して市長は、9月10日、議会解散を議長に通告しました。自ら招いた問題の解明を先送りにした大義のない行為ではないでしょうか。

議会は9月市議会で、市民のくらしにつながる教育長などの人事や補正予算の審議より市長不信任を優先させ、議会初日にその議決を行いました。

そうした中で、共産党議員は「市長の疑惑解明」と「議会本来の役割を果たすこと」を両立させるように努力してきました。

こうした状況を経て行われる今回の市議会議員選挙(10月19日投票)では、私たちは現市長不信任と同時に、5月の市長選で示された「市政を変えたい」との民意を尊重する立場に立って臨みます。

この2年間の3つの主な実績と、切実ですぐ実行可能な私たちの4つの重点政策をぜひお読みください。

日本共産党伊東市委員会では、今までにも増して公正・公平な市政と、市民一人一人が真に大切にされる市政をめざしていきます。

2025年10月5日

日本共産党伊東市委員会

共産党 議員



この2年間の 豊かな

実績

①タクシーチケットの利用は 70歳以上だでもOKに！

「バス停まで歩けない人もいる。バスチケット補助をタクシー利用にも拡充して！」この切実な声を受けて、文書や対面での交渉を重ね、昨年の八幡野タウンミーティングでは「必要」との市長答弁を引き出し、ついに今年度から実施へ。

70歳以上の高齢者は、届いたはがきを持ってアピタやタクシー会社に行けば、5,000円で10,500円分のチケットが購入できるようになりました。



②子ども食堂への市の補助金が毎月 5,000円から6,000円へアップ！

年間では12,000円のアップです。市民団体と共に粘り強く交渉しました。

③給食無償化・次年度以降の継続に 道を開く！

国待ちではなく、市の財源をまず充当するよう市長にも働きかけました。



子ども・市民応援のあったか市政を！



これからは・・・まず次の4つから

エアコン購入費を 65歳以上の
非課税世帯に7万円まで助成

小・中学生の通学交通費の
保護者負担を減らす

センター給食を 夏休みの学童
保育所等の希望児童に提供

加齢性難聴購入助成(3万円)を
直ちに実施

市民に 信頼され 市民とともに歩む 市政 に

公平で公正な市政を実現

- 徹底した情報公開で、見える市政運営にします。
- 市民とともに考えながら取組む仕組みを作ります。



- 宇佐美子ども園は安全な場所に
- 図書館は分散ネットワーク型で
- 異常気象に備える防災対策
- 介護用おむつクーポンを支給
- 市民病院の産科・小児科を充実
- メガソーラー建設反対を貫く
- 「核兵器廃絶平和都市宣言」の具体化
- 市民の性の多様性を尊重

こんなまちに！

- 子育てしやすい
- 高齢者が安心して暮らせる
- 来ても住んでもたのしい
- 働きやすい
- 多文化共生

詳しくはJCP伊東
ホームページで



日本共産党は旧市政の復活を許さず、今後も現市長不信任の立場に立ってこれらの要望の実現に努力します。